

3.4.2 アクティブ・ラーニングと探究活動を視点とした授業改善

担当：福田 直起

実施時期：令和2年4月～令和3年3月

対象生徒：全校生徒

1. 研究開発の経緯と目的

新学習指導要領で求められる主体的で対話的な深い学びを実現する手段としてアクティブ・ラーニングや探究活動を視点とした授業改善の必要性が増している。本校では、開校以来全生徒が総合的な探究(学習)の時間を「神戸学」として探究活動に取り組んできた。また、SSHの指定を受けて「神戸学」の更なるレベルアップと学校設定科目での探究活動を実施している。これらを基として、全ての教科での授業改善を図る。

今年度は、新型コロナウイルス感染症感染防止の観点から、アクティブ・ラーニングとしてのグループ学習などの手法が実施不可となった。このような状況の中で、新しい視点での授業改善を図る。

2. 仮説

多様な教科で、オンライン等を活用した授業手法による主体的な学びや授業内容の改善による主体的な学びを実現する。このような学びによって、論理的思考力や表現する力が高まり、課題研究や神戸学の発展に繋がると考えた。本事業により育むことができる力は以下の通りである。

	課題 設定力	企画 協働力	論理 考察力	自己 学習力	表現理解力		ICT 活用力
					発表	質問	
仮説	○	○	○	○	○	○	○

3. 研究内容・方法

本事業の主な活動内容は以下の通りである。

- ・教員対象の研修会への参加、進路関連企業等からの情報収集を進める
- ・授業改善・新入試対策の関連書籍を購入する
- ・授業改善を率先的に進め、研究授業等を実施し、校内での授業改善の指揮を執る
- ・授業改善・評価改善を行う

今年度はさらに下記の内容も実施した。

- ・オンライン等を活用した授業手法の検討を行う
- ・授業改善・評価改善実施のシステムを構築する

4. 検証

オンライン等を活用した授業手法の検討について、GIGAスクール構想を本校でスムーズに実施するための良い検討材料となった。今年度の実施については有意であったが、一部の教員による実施に留まったため、今後も改善改良が必要となる。

授業改善・評価改善について検討の中心機関となる学力向上委員会を校内で設立した。委員会を中心として相互授業見学習慣や授業アンケート書式の統一などシステムの基盤となる取組の実施を行ったため、今後の事業の躍進が期待できる。